



第54回 日本動脈硬化学会総会・学術集会

ランチョンセミナー6

冠動脈疾患のリスク管理における small dense LDLコレステロール検査の 有用性について

日時

2022年7月24日(日)
12:10~13:10

会場

第4会場

久留米シティプラザ5F 大会議室1

※現地開催のみとなり、オンデマンド配信はございません。

座長

木庭 新治 先生

昭和大学 歯学部 全身管理歯科学講座
総合内科学部門 教授

演者

吉田 博 先生

東京慈恵会医科大学附属柏病院 病院長
東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授

冠動脈疾患のリスク管理における small dense LDLコレステロール検査の 有用性について

LDLコレステロール (LDL-C) を低下させることにより動脈硬化性心血管疾患 (ASCVD) の発症が抑制されることは大規模臨床試験などの成績から明らかであるが、LDL-Cが基準範囲内であってもASCVDが発症する例も少なくない。LDLは粒子サイズおよび比重によりsmall dense LDL (sdLDL) とlarge buoyant LDLに大別されるが、前者は高TG血症、メタボリックシンドロームや糖尿病などで増加し、後者に比べて動脈硬化惹起性を有する。

複数の大規模コホート研究のなかでsdLDLコレステロール (sdLDL-C) 値とASCVDの関連性が報告されており、欧米ではAtherosclerosis Risk in Communities Study (ARIC)、Multi-Ethnic Study of Atherosclerosis (MESA)、Framingham Offspring Study (FOS)、Copenhagen General Population Study (CGPS) でエビデンスが報告されている。日本では、2013年に吹田研究で関連性が示され、さらに2020年には久山町研究においてsdLDL-C値第4四分位 (43.7mg/dL) 以上の群では第1四分位 (24.4mg/dL) 未満の群と比較して冠動脈心疾患 (CHD) 発症リスクが約5倍に上昇することが示され、カットオフとしてはsdLDL-C 35mg/dLが示されている。

sdLDL-Cの測定には従来は特別な設備を必要とし、測定に長時間を要するため日常検査で利用困難であったが、現在は生化学検査に用いられる自動分析装置を用いて迅速、簡便に測定することができる。また、保険診療未承認ではあるが「冠動脈性心疾患発症リスクの管理の補助」を目的に体外診断用医薬品として最近認められた。

本ランチョンセミナーでは、sdLDL-Cの臨床的意義やスタチン、フィブラート等各種治療薬との関連性を中心に、sdLDL-Cに関する検査から臨床にわたった最近の知見を紹介するとともに、今後のASCVDリスク管理におけるsdLDL-C検査の活用方法についても概説する予定である。